

製品名: HLA-Drb1 (11B17) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe12088**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.48mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:2000,ICC/IF 1:20-1:50
分子量	30kDa

抗原情報

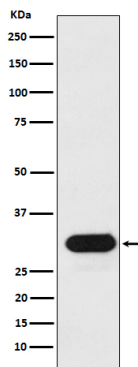
遺伝子名	HLA-DRB1
別名	HLA-Drb1; DW2.2/DR2.2;
遺伝子 ID	3123.0
SwissProt ID	P01911
免疫原	ヒト HLA クラス II DRB1 の合成ペプチド

背景

抗原提示細胞 (APC) のエンドサイトーシス経路にアクセスする抗原由来のペプチドに結合し、CD4 T細胞による認識のために細胞表面に提示します。抗原提示主要組織適合抗原複合体クラス II (MHCII) 分子のβ鎖です。α鎖 HLA-DRA と複合して、HLA-DRB1 拘束性 CD4 陽性 T細胞上の α-βT 細胞受容体 (TCR) による認識のために、抗原ペプチドを専門抗原提示細胞 (APC) 上に提示します。これにより、抗原特異的な Tヘルパーエフェクター機能 (抗体介在性免疫応答とマクロファージ活性化の両方) が誘導され、最終的に感染性病原体と変異細胞が排除されます (PubMed:29884618、PubMed:22327072、PubMed:27591323、PubMed:8642306、PubMed:15265931、PubMed:31495665、PubMed:16148104)。典型的には、リソソーム内でエンドサイトーシスされた抗原のタンパク質分解によって生じる 10~30 アミノ酸からなる細胞外ペプチド抗原を提示します (PubMed:8145819)。腫瘍微小環境において、腫瘍常在 APC において主に生成される抗原ペプチドは、おそらくアポトーシスを起こした腫瘍細胞の貪食または分泌された腫瘍タンパク質のマクロピノサイトーシスを介して提示されます (PubMed:31495665)。マクロオートファジー後にオートリソソームに捕捉された細胞内タンパク質由来のペプチドは、胸腺における T細胞の選択と中枢免疫寛容に特に関連するメカニズムです (PubMed:17182262、PubMed:23783831)。免疫優勢エピトープの選択は、病原体由来の抗原ペプチドの場合は「最初に結合し、後で切断/トリミングする」、自己抗原/自己ペプチドの場合は「最初に切断し、後で結合する」という2つの処理モードに従います (PubMed:25413013)。ペプチド N 末端の位置 1 にあるアンカー残基は、通常、大きな疎水性残基であり、MHCII 分子との高い親和性相互作用に不可欠です (PubMed:8145819)。

研究分野

画像データ



Ramos 細胞溶解物中の HLA-Drb1 発現のウェスタン ブロット分析。